

【担当教員】

伊藤 敦美

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報 1号棟509室

【授業目的および達成目標】

〔授業目的〕

将来教育者となる際に必要となるであろう、教育学の基礎知識を修得することを目的とする。また現代の教育が抱える問題を学ぶことによって、教師になろうという意欲や熱意を喚起することを目的とする。「本学の教育目的 1」にある「人類の文化的・経済的活動など、技術科学ととりまく諸事情を理解」することの育成も同時に図る。

〔達成目標〕

- (1) 教育の基礎的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する。
- (2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- (3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。

【授業キーワード】

教育の理念、人間と教育、教育の思想、学校教育、現代の教育問題

【授業内容および授業方法】

〔授業内容〕

この授業では、教育が歴史的にどのように発展し、現代に至ったのかを跡付けていくことによって、教育の基本概念とはなにか、教育の目標がどこに求められたのか、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶ。また、近代教育の成立に寄与した代表的な人物の教育思想、日本の近代学校教育制度成立期の教育思想、第2次大戦後の教育思想や教育理念を学ぶことを通して、「不易」といわれる変わらない教育の本質と時代の要請による教育の在り方いわゆる教育の「流行」を捉える。

〔授業方法〕

講義形式。テーマによってはディスカッションも行う。

【授業項目】

- 第1回 教育とは何か
- 第2回 教育の本質 (1) 陶冶・教化・形成
- 第3回 教育の本質 (2) 転移概念と学力
- 第4回 教育の思想 (1) (ロック・コメニウス)
- 第5回 教育の思想 (2) (ルソー・フレイベル、ペスタロッチー)
- 第6回 教育の思想 (3) (ヘルバルト・デューイ)
- 第7回 西洋における学校教育の歴史 (1) 古代～中世
- 第8回 西洋における学校教育の歴史 (2) 近世～現代
- 第9回 公教育体制の成立
- 第10回 日本の教育の歴史 (1) 明治・大正
- 第11回 日本の教育の歴史 (2) 戦前・戦中
- 第12回 日本の教育の歴史 (3) 戦後
- 第13回 学校教育の目的・目標
- 第14回 学校のエデュケーション
- 第15回 今日の教育課題
- 第16回 期末試験

【授業時間外学習（予習・復習等）】

学習効果を上げるため、教科書等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習を90分程度行い、授業内容に関する復習を90分程度行うことが望ましい。

【教科書】

岩崎保之編著『教育・保育の基礎を学ぶ』国際文献社、2018年。

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領』

伊藤敦美「教育の思想」『現代の教職原理』考古堂、2010年。

ジョン・デューイ著・市村尚久訳『学校と社会』講談社学術文庫、1998年。

ジョン・デューイ著・河村望訳『民主主義と教育』人間の科学社、2000年。

【成績の評価方法と評価項目】

筆記試験（60％）、講義中の課題・レポート（30％）、学習態度（10％）により評価する。

試験の実施時期については授業で周知し、講義内容全般についての理解度を確認する。試験の際の資料等の持ち込みは不可とする。学習態度は、授業中の態度、授業中の発言、欠席状況等を総合的に査定する。

【留意事項】

第1回目の授業から教科書を使用しますので、準備をしておくようお願いします。

【参照ホームページ名】

平成29・30・31年改訂学習指導要領（本文、解説）

【参照ホームページアドレス】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

【備考】

特になし。

【ディプロマポリシーとの対応】

- 【】 1. 理数の技法と技術科学の見方
理数とデータサイエンスの概念・技法の習得、及び社会を支える様々な技術の科学的理解。
- 【】 2. 思考力・表現力と社会的視野
理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び技術と社会、安全、環境との関わりの理解。
- 【】 3. 専門の基礎力
技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。
- 【】 4. コミュニケーションと協働の力
英語による技術コミュニケーション基礎力、及び国際感覚を持ちチームで協働できる能力の習得。